

議会だよ入善

GIKAI

DAYORI

NYUZEN

No.156
2011年1月27日



4年ぶりの元旦マラソン

12月定例会

子宮けいがんワクチン接種などに助成 (補正予算)	2p
地区振興補助金の改善を (決算特別委員会)	3p
TPP交渉参加反対 (請願・陳情・議員提出議案)	4~5p
用排水路の老朽化にどう対応するか (常任委員会レポート)	6~7p
町政を問う 代表・一般質問 (8議員)	8~15p
作法は心を磨く (生涯現役)	16p

子宮けいがんワクチンなどの 接種に全額助成

12月議会の
あらまし

12月議会は、7日から22日までの16日間開会し、町長から提案のあった平成22年度補正予算案3件、条例の一部改正など議案3件、議員提出議案14件を審議し、すべて可決した。

また、請願3件、陳情5件を審査したほか、15日、16日に代表・一般質問が行われ、8人の議員が質問に立ち、論戦が交わされた。

補正予算の概要

12月議会に提案された一般会計の補正予算では、子宮けいがんなど感染症に対するワクチン接種費の助成や道路改良舗装事業費の増額、生徒用机の天板大型化などが予算化された。

一般会計では、4703万円を追加し、総額98億8875万円とした。

国民健康保険特別会計では、高度医療による高額療養費の増加などに伴い、2255万円の追加をし、総額23億7554万円とした。

下水道特別会計では、国の緊急総合経済対策に伴い、下水道工事費1億円の増額などを行い、総額19億7883万円とした。

主な事業

道路改良舗装事業

5000万円

地域経済のために、切れ目なく公共事業を継続できるよう道路の改良、舗装事業の増額を行う。

感染症予防事業

1427万円

国の補助を受け、対象となる幼児、生徒に「ヒブ感染症」「肺炎球菌」「子宮けいがん」のワクチン接種に助成を行う。

中学校生徒用机天板取替え

292万円

新学習指導要領により教科書が大きくなるため、県補助を受け、生徒用机天板の大型化を図る。

県産材を使用した天板を購入する。

人件費の減額

△3915万円

人事院勧告を受け、職員の給与に関する条例を一部改正したことや退職などにより、人件費を減額する。

臨時会

11月29日

11月の臨時議会では、入善町の職員の給与に関する条例等の一部改正を審議し可決した。

入善町の職員の給与に関する条例等の一部改正

低迷する経済情勢において、公務員給与と民間給与の格差を解消する改定を内容とした人事院勧告を受け、職員の給与改定を行った。

◎主な改定の内容

- ・若年層を除き、職員の給料月額を平均0・1%引下げる。
- ・当分の間、55歳を超える職員（行政職給料表6級以上の職員）の給料、期末手当、勤勉手当を1・5%引下げる。
- ・職員の期末手当（0・15月）・勤勉手当（0・05月）を合わせて年間0・2月引下げる。

また、特別職、議員については、期末手当を0・15月引下げる。

決算特別委員会レポート

～平成21年度決算を認定～

9月16日から、平成21年度の一般会計および特別会計の審査が行われた。

会計管理者をはじめ担当課長の出席を求め、添付資料に基づく説明を受け、質疑を行うなど、7回にわたり委員会を開催した。

10月29日には、J Aみな穂上原支店内の農産物処理加工施設、深層水アワビ養殖の現況を視察した。

また、舟見地区ではクマによる被害箇所や進入防止電気柵、対策本部などを視察し、さらに舟見寿楽苑では、新しく完成したユニット型施設の説明を受けた。

中心市街地の花月公園や周辺の駐車場、上飯野墓地公園の現況把握を行った。

11月4日に総括質疑、討論、採決を行い決算特別委員会の審査を終了した。



農産物処理加工施設で説明を聞く

付託案件はすべて認定

一般会計と後期高齢者医療特別会計は賛成多数、国民健康保険や下水道などの特別会計6件は、賛成全員で認定すべきと決した。

主な質疑応答

町債返済に占める

国からの交付税は

Q 毎年の町債返済の中で、国からの補助に

類する交付税は、どれぐらい含まれるか。

A おおむね半分程度である。災害によるものは9割である。

地区振興補助金の改善を

Q 地区振興補助金は、町税の収納率を加味して配分しているが、改善するべきではないか。

A 新たな地域コミュニティ・パートナースhip補助事業でも、改善を検討していく。

商品券の利用状況は

Q プレミアム商品券の利用状況はどうか。

A 大型スーパーが半分、小型店が40%、飲食店・自動車関係で10%利用されている。

障がい児へのサポートは

Q 障がいのある児童の学習活動をサポートするスタディメイトの配置状況はどうか。

A 町では発達障がいのある児童を対象に、入善小学校は週1回、桃

李小学校は週2回派遣している。

ケーブルテレビのデジタル対応は

Q 7月からのデジタル化に、ケーブルテレビではどう対応するのか。

A 総務省は、ケーブルテレビについては、平成27年までデジタル波をアナログ変換して放送してよいとしている。みられテレビもデジタル変換を行い、平成27年3月まで従来のテレビで視聴できるようにする意向だ。

決算特別委員会

委員は次のとおり

委員長	佐藤 一仁
副委員長	野島 浩
委員	元島 正隆
委員	谷口 一男
委員	大橋 美椰子
委員	松田 俊弘

請 願 ・ 陳 情

最低保障年金の創設と、無年金・低年金者への緊急措置を求める意見書の請願

請願者 全日本年金者組合黒東支部
財源を消費税によらない最低保障年金制度を制定するよう、国に意見書の提出を求める。

反対多数で不採択とした

高齢者の医療制度の抜本的な改正を求める請願

請願者 全日本年金者組合黒東支部
後期高齢者医療制度を速やかに廃止し、安心して受診できる医療制度をつくるよう、国に意見書の提出を求める。

反対多数で不採択とした

TPP交渉参加反対に関する請願書

請願者 みな穂農業協同組合
TPP交渉への参加に反対するよう、国に働きかけを求める。

賛成全員で採択とした

直轄事業の継続と適正な維持管理、建設業の再建を求める陳情書

陳情者 国土交通省全建設労働組合
北陸地方本部 黒部支部ほか2団体
国土交通省の地方出先機関を廃止せず、引き続き国が事業を継続するよう、国に意見書の提出を求める。

賛成全員で採択とした

地域を支える建設業の健全化に向けた「公契約法（条例）」の制定を求める陳情書

陳情者 国土交通省全建設労働組合
北陸地方本部 黒部支部ほか2団体
公共工事において、建設労働者の適正な賃金を確保する「公契約法（条例）」を制定するよう、国に意見書の提出を求める。

継続審査とした

尖閣諸島領海侵犯事件及びロシア大統領領国後島訪問への意見書提出に関する陳情書

陳情者 日本の主権・領土を守る
富山県民の会
尖閣諸島及び北方領土が、わが国固有の領土であることを、国内外に表明し、措置を講ずるよう、国に意見書の提出を求める。

賛成全員で採択とした

TPP参加に反対する意見書提出を求める陳情書

陳情者 農民運動富山県連合会
TPPに参加しないよう、国に意見書の提出を求める。

賛成全員で採択とした

看護師不足解消のため、看護師等の夜勤改善と社会保障予算増額を求める陳情書

陳情者 富山県医療労働組合連合会
看護師不足解消のため、看護師の労働条件などを改善するよう、国に意見書の提出を求める。

反対多数で不採択とした

富山県後期高齢者医療広域連合議会議員の選挙

町選出の広域連合議会議員に欠員が生じたため、次の者が選挙で当選した。

入善町議会議員
長田 武志 氏

選挙管理委員会委員の選挙

平成22年12月25日で任期満了となる選挙管理委員を選挙した結果、次の4人が当選した。



井田 勲 氏
(委員長)
入善町芦崎



高見 敏明 氏
(委員長職務代理者)
入善町小杉



小路 みつ子 氏
入善町上野



米澤 茂美 氏
入善町入膳

議員提出議案

無施設被害防止に関する決議

住民、関係団体と連携し、無施設被害防止に取組み「犯罪の起きにくい町・入善」の実現を誓う。

次の意見書を可決し、国へ提出した。

子ども手当財源の地方負担に反対する意見書

子ども手当財源の地方負担廃止を求める。

地方経済の活性化策を求める意見書

地域に即した事業支援による地方経済の活性化策を速やかに実施するよう求める。

地方交付税の特別加算は削減でなく増額を求める意見書

地方交付税の特別加算を削減するのではなく、増額するよう求める。

「尖閣諸島領海侵犯事件及びロシア大統領国後島訪問」への意見書

尖閣諸島及び北方領土が、我が国固有の領土であることを表明し、早急に措置するよう求める。

切れ目ない中小企業支援及び金融支援策を求める意見書

景気回復に向けて切れ目のない「中小企業支援」及び「金融支援策」を早急に決定・実施するよう求める。

農業普及及事業の継続と予算確保を求める意見書

事業仕分けで予算計上見直しと判定された協同農業普及事業及び林業普及指導事業を今後も継続して実施するよう求める。

鉄道建設・運輸施設整備支援機構の特別業務勘定に係る利益剰余金の北陸新幹線整備等への活用を求める意見書

機構の利益剰余金を、北陸新幹線の整備や、並行在来線の維持確保等の財源として活用するよう求める。

地域間格差を拡大する「地方移譲」を行わず、建設業の再建及び直轄事業の継続と促進を求める意見書

国土交通省の地方出先機関を廃止しないことなどを求める。

平成23年産米における生産数量目標の見直し等を求める意見書

大幅に削減された平成23年産米生産数量目標に対し、見直しや支援措置を求める。

環太平洋戦略的経済連携協定（TPP）に関する意見書

農林水産業の保護や競争力強化の具体策が明確にされていない現状であり、TPP交渉への参加に反対する。

朝鮮高級学校を高校授業料無償化の対象とすることについての意見書

授業料無償化は、教育内容の是正及び就学支援金が生徒の授業料の支払いに充当されることを前提条件とするよう求める。

ロシア大統領の北方領土訪問に対し、毅然とした外交姿勢を求める意見書

ロシア大統領の北方領土訪問に嚴重に抗議し、国が毅然たる外交姿勢で臨むことを求める。

政府に対し万全の危機管理体制の構築を求める意見書

韓国領延坪島砲撃の際、危機管理意識の薄い対応であったことから、万全の危機管理体制を構築するよう求める。

レポ ー ト

総務 常任委員会

中学生机天板取替え

Q 中学生の机天板を県産材を使い、取替えるとのことだが、どうしてか。

A 教科書がB版からA版に大きくなるのにあわせ、天板を縦、横5cm大きくする。

県100%補助であり、2方で全小中学生のものを取替えたい。

職員給与の減額総額は

Q 今回の職員給与の減額総額はいくらになるのか。毎年下がっているが、町の考えはどうか。

A 職員258名分、総額は1721万円余である。一人当たり平均6万7200円余の減となる。

今回、特別職の報酬も

減額となった。社会情勢が厳しい折、職員と共に減額が適当であると思う。

Q 退職手当組合負担金がある。退職者は何名か。早期退職者の理由は。

A 予算計上したのは2名である。家庭の事情による退職と聞いている。

国保システム改修委託料の内容は

Q 国民健康保険のシステム改修委託料とあるが、具体的内容は。

A リストラなどによる非自発的失業者は、国保に加入することになる。国保税は前年度所得に課税するので、失業者にとって負担である。

こうした人の国保税を計算する時、前年度所得を30%に引き下げて算出する。2年間の軽減期間があり、その計算をするための改修である。

Q 町で該当する方は何名か。

A これまで69名の申請があったが、その間20名の方が再就職された。

簡易水道の施設整備の内容は

Q 施設整備に補助金が出ているが、井戸掘りやポンプ改修も対象になるのか。

A 基本的に井戸の更新に伴う必要な助成で

ある。1戸当り5万円、16戸分を計上した。

し尿収集の現状はどうか

Q し尿収集の利用者と収集に必要な経費は。

A かつて7000軒以上あったが、現在2000軒余りだ。処理費用は、1戸当り6・1円。業者への委託

料は、処理費用と固定的経費によって算出している。

シルバー人材センターの実情は

Q シルバー人材センターから、補助金を削減しないよう要望書が出ている。センターの実情は、どうなのか。

A 人件費などを補助している。国の事業仕分けにより補助金の減少の動きが出ている。

減額されると人件費などに、支障をきたすことから、補助金を減らさないでという要望である。



井戸掘りの現場

常任委員会

産業教育 常任委員会

有害鳥獣対策の状況は

Q 有害鳥獣対策の状況はどうか。

A パトロールの状況は、延べ421人の出場、緊急出動した回数は63回である。パトロール範囲は、人とクマの生息地域が混在するところから、市街地にかけてのパトロールが中心である。人の出入りがあるところは原則駆除していく。

また、サルの被害については、電気柵の効果もあり、18年頃と比べると無いに等しい。ここ3年ほど駆除例は無い。

道路改良舗装事業費の補正内容は

Q 一般財源で5000万円の補正計上を評

価するが、国・県の支援、起債の活用など方策は無かったのか。また、地元からの陳情・要望など何件程度あるのか。

A 町道の改良、舗装、側溝の改修など、小規模で県などの補助対象にならないものを優先し、景気浮揚策、要望の前倒しで予算化した。

要望などについては、100件あまり、そのうち毎年30件ほど取組んでいる。

補助対象になるのは幹線道路の整備だけで、農道整備は補助対象にならない。

国道8号線拡幅と交差する幹線道路の整備は

Q 国道8号線の拡幅整備はいつになるのか。

また交差する幹線道路の整備はどうなるのか。国道の拡幅前に幹線道を整備する手立てもあるのでは。

A アイシン新和の前など、早期の改修を国機関に要望している。

国機関は、23年度で地元説明、25年度で工事着手という考えを示した。町としても交差点処理の計画をたて地元で協力を求めたい。

用排水路が老朽化、土地改良事業をどうする

Q 圃場整備を終えて40年経過。用排水路の老朽化や田の陥没などにより、各地で漏水がおきている。

土地改良予算の大幅な減少の中、今土地改良区では河川の修理など出来ないのが実態ではないか。

A 農業の形態も兼業農家から受委託へと変化。高齢化など今後農村負担、農業負担は困難と考えている。

田の陥没について、農地の所有者の責任ではなく、支援は準公共的なものとして土地改良区と協議して取組みたい。

こんな意見も

◎土地改良区の今後のあ

り様と、行政の関わり方はどうあるべきか議論する時期に来ている。

◎有害鳥獣パトロールについて、猟友会の皆さんに大変な負担をかけた。感謝しなければならぬし、町当局の更なる支援の強化を図りたい。

◎カラスの駆除について、全国からの情報を得た試験的な対応も必要である。

◎農業を基幹産業とする本町にとって、T P Pの問題は断固反対すべき。

しかし、農業を守ることによって国民は幸せになるかといえ、日本経済の実態から問題もある。政府与党が農業、国土を守るという政策を明確にして初めて、T P Pの議論をすべきものである。



田の陥没現場から掘り出された樹根など



大型コンバインによる刈取り

農家を破綻に追い込む
TPPへの参加を断固阻止せよ
町長 他の自治体と歩調をあわせ国に働きかける



中瀬 範幸 議員（アクセス入善）

問 政府はTPP（環太平洋戦略的経済連携協定）について関係国と協議を開始すると閣議決定した。稲作農家を破綻に追い

込むTPPへの参加を町長が先頭に立って断固阻止せよ。

米澤町長 TPP参加で関税が撤廃され、日本の農産物は競争力を失い、壊滅的な打撃を受ける。

農水省試算では、国産価格の4分の1程度の外国産米が国内で流通し、町に当てはめると90%以上のコメ生産が減少すると予想される。

全国町村長大会でも参加反対を決議した。今後とも他の自治体と歩調をあわせ国へ働きかける。町では、状況が変化しようとも農業を守り発展させていく努力を貫く。

コメ生産数量目標5・2%減への対応は

「転作作物としてのコメづくり」を検討している

問 12月1日、23年産米生産数量目標5・2%削減が示された。

転作準備もすでに済んでいる。対応方法は、

竹島農水商工課長 これまで真面目に目標を守ってきたのに、約130haの転作追加となる。国に見直しを求めている。

飼料米、米粉用米などの新規需要米、輸出用米を「転作作物」としてのコメづくり」に取組むことを検討している。

23年度予算の重点事業と財政見直しは

コミュニティ施設整備や保育所の統合整備

問 23年度予算の重点と財政見直しはどうか。

町長 第6次総合計画の実現に向け、基盤づくりの予算と位置づけている。

特に推進する事業として、コミュニティ施設の整備や保育所の統合整備、パークゴルフ場の増設などに向けた対応である。

財政見直しは、長引く不況の影響により、個人町民税の減収、固定資産税の減収が見込まれる。

地方交付税は、22年とほぼ同額が示され、町の歳入は今年度と同額を見込むが、まだ不透明部分が多く情報収集に努め、国・県が固まり次第、即

応できる態勢をとっている。

中学3年生までの医療費を無料化せよ

23年度中に実施し子育て支援を強化

問 住む人に優しい「N y u z e n i s No.1」の町づくりをめざして、

子どもの医療費無料化を中学3年生まで延長せよ。町長 町では、20年10月から、小学6年生まで無料化している。

少子・高齢化が進む中、将来の入善町を担う子どもを、安心して生み育てられる環境づくりが一層求められる。

このことから、中学3年生までの無料化を23年度中に実施し、子育て支援の強化を図りたい。

町が支援した企業で町民の雇用は増えたか

農水商工課 課長 相当数雇用、引き続き採用を要請する

問 町が、企業立地助成や固定資産税を免除した企業で、町民の雇用は増えたか。採用の厳しい高校生についてはどうか。

農水商工課長 助成して

きた企業は、相当数の町民を新規雇用している。新川地域の高校生就職内定率は73%で、昨年より1・2%改善した。

厳しい経済状況であり、引き続き各企業に採用のお願いに行きたい。

TPP参加で町農業はどうなる

コメを中心とする町農業は甚大な影響を受ける可能性

問 TPP（環太平洋戦略的経済連携協定）への参加で、食料自給率は14%に急落し、県のコメ生産量は90%減るとしている。

町の農業はどのような

影響を受けるのか。

町長 町は農産物に占めるコメの割合が県平均より高く、さらに甚大な影響を受ける可能性がある。

問 この約25年間で、町の農地面積はあまり変わらないのに、農業生産額は約88億円から約45億円に半減している。

歴代政府は、コメの価格保障をやめ、年間77万トンも輸入してきた。

TPP参加に強く反対し、価格保障の復活を求めざるべきではないか。

町長 農業再生に向けた施策や各国との交渉を、きつちりと行うよう、国に働きかけていきたい。

問 飼料用イネ、米粉用

イネの作付けを増やすために、需要の拡大を図る考えはないか。

町長 転作拡大と収益性確保の両立を図る上で有効であり、需要拡大に向け積極的に取り組む。

黒部川の環境を守り地下水の保全を

自然の土砂流下に近い形での排砂を

問 地下水保全のために一定量以上の地下水利用の企業に、協力支援を求めているかどうか。

室住民環境課長 「地下水保全条例」を制定し、町全体での地下水保全への意識を深めたい。

企業への協力要請は、現時点では考えていない。

問 ダム排砂の環境に与える負荷を減らすために、一定の出水ごとに、きめ細かな排砂を求めていくべきと考えるがどうか。

草島建設下水道課長 出

水時にあわせて、自然の土砂流下に近い形で、排砂を行うことが重要だ。

国や関西電力に働きかけていきたい。

高波災害の教訓からも急がれる防災林整備

県は今後も2カ所で整備を進める

問 海岸防災林の整備を今後、どう取組むのか。

マツクイムシの被害木を残すことのないよう、4月中に、全て伐採すべきと思うがどうか。

建設下水道課長 今後2カ所で整備を進め、来年度より神子沢地区で着手する計画だ。横山地区では、具体的に住民と協議していきたい。

100%感染木を発見することは困難。県でも、調査や駆除の方法について検討している。



増築中の(株)サンリッツ



松田 俊弘 議員 (日本共産党)



いのちの教室(入善西中学校)

不育症患者の検査・治療への助成実施を

町長 町としてどのような対策が取れるか 検討していく



大橋 美椰子 議員

問 流産・死産を繰り返す不育症患者が増えている。専門家は「適正な検査と治療を施せば85%は無事出産できる」と強調

している。

高額な検査・治療費用の捻出が困難なため、赤ちゃんの誕生をあきらめる人が多い。不育症患者への助成を求める。

町長 不育症の治療については、助成がなく一部の治療は保険適用外のため費用がかかる。町としてどのような対策がとれるか検討していく。

心の健康サポート協力店事業が必要
関係機関と連携し事業を促進したい

問 「メンタルヘルス（心の健康）サポート協力店事業」がある。地域で自

殺予防の役割を果たすと
言われる、ゲートキーパー
（気付き、傾聴し、つなぎ、
見守る役）を理容店や美容
容室に委嘱して、悩みや
相談を聞くものである。
必要があれば相談機関へ
の橋渡しを行うという。

この事業に取組む考え
はあるか。
金澤健康福祉課長 町ではメンタルヘルス対策として21年度から国の自殺対策緊急強化基金により「うつ対策」や自殺予防に取組んでいる。

富山市では10月から国の基金で、養成講習会の開催、協力店の登録、紹介ガイドの配布などを始めている。

町でも今後は自殺予防のゲートキーパー的な役割を担う人を育成するため、医療機関・調剤薬局などと連携を強化し、事業を推進していきたい。

期日前投票、手続きの簡素化を

投票者の利便性の向上に努めている

問 来春の統一地方選挙から期日前投票の「宣誓書」は、自宅で記入できるように手続きの簡素化を進めよ。

田中選挙管理委員会書記長 都市圏を中心に、期

日前投票所の混雑を緩和するため、投票所入場整理券の裏面に、あらかじめ宣誓書を印刷し、郵送している選挙管理委員会も出始めている。

町選挙管理委員会では、希望者には宣誓書の別途郵送や、町ホームページから印刷できるようにしたり、あるいは代理人に事前に取りに来ていただくなど、投票者の利便性の向上に努めている。

特別支援教育支援員の拡充を

人材確保に苦慮

問 発達障がいも含め、障がいを持つ児童が増えている。支援員を拡充し、教師の教育指導への配慮と、児童が安心できる学校生活とされたい。

滝本教育長 必要とする人材の確保に大変苦慮しており、人的措置が足りない現状だ。人材の確保に努める。

人口減少と少子化への対応は

町長 総合的な施策を進め

人口水準を維持したい

問 町人口は、平成元年の2万9689人をピークに減少傾向が続いている。

総合計画の視点を、人口減少と少子化という社

会問題に真正面から取り組むべきと思うがどうか。

町長 人口減少と少子化は、町の活力の低下を招くと懸念している。

そのため、医療制度の拡充をはじめ、保育所の統合による保育サービスの拡充、学童保育の全小学校区における実施、働く場所の確保、交通網の整備など総合的な施策を進め、現在の人口水準を維持したい。

環境基本条例の制定は、環境行政の要だ。

また、地下水保全条例の早期整備はどうか。

住民環境課長 良質で豊富な地下水の保全に取組むためには、地下水を町民共有の財産という認識の下、湧水、地下水保全、涵養対策、節水対策などを内容として、平成23年度を目的に制定したい。

環境基本条例は、環境行政の根幹であると認識している。

新総合計画とリンクさせ、よりよい方向付けをしたい。

新総合計画とリンクさせ、よりよい方向付けをしたい。

地下水保全と環境基本条例の制定は

地下水保全条例制定に取り組む

問 未だ策定されていない



鬼原 征彦 議員

「とも補償制度」にどう取組む

「産地資金」新設 前年の水準維持重要

問 戸別所得補償制度の激変緩和措置が無くなる。

町はこの措置によって「とも補償制度」を維持してきたが、国の財政難の中で、財源の確保と、制度の維持にどう取組むか。

農水商工課長 平成22年度の激変緩和措置に替わり「産地資金」が新設される予定で、22年度と同様、一定の財源措置がなされる。

前年度並みの「とも補償」水準を崩さないことが重要である。

22年産米の品質低下をどう分析

記録的高温が影響 来年度に活かしたい

問 平成22年産米の検査状況では、コシヒカリの一等米比率は32・4%と前年の97・7%に比べ大幅に下落した。

品質低下をどう分析しているか。

農水商工課長 品質低下の原因は、コメが白く濁る白未熟粒が多く発生したことによるもので、出穂後の記録的な高温が大きく影響した。

土壌中の粘土質や有機物の含有割合が低い地域、一穂当たりの籾数が過剰になった地域などで一等米比率が下がった。

関係機関の協力を得て、栽培管理など、来年度に活かしたい。



高瀬湧水の庭



改築が待たれる地区公民館

耐震基準を満たしていない地区公民館の建設計画を示せ

町長 社会資本整備総合交付金の活用で舟見・野中地区の施設を先に整備したい



笹島 春人 議員

問 耐震基準を満たしていない地区公民館は、昭和51年建設の飯野地区、55年建設の舟見地区、55年建設の野中・横山地区の公民館である。

古い施設から順次整備すべきである。

町長 平成27年度までの新総合計画前期5カ年の期限内に、完成もしくは着工に漕ぎ着けたい。

今年度、新たなコミュニティ施設への建設に向けた2億円の基金を創設するほか、4地区に区長会を中心とする検討委員会を設置していただき、施設の機能や規模など要望の取りまとめをお願いしている。

舟見・野中地区を先に整備したい。飯野・横山地区の整備については、引き続き財源の調査を行うとともに、遅くとも平成27年度までには着工し

ていく。

問 補助金などの財源が見つからないことで、建設が後回しになることはないか。

町長 そのようなことはない。

高速道路のり面など公共白地の防除体制は効率のよい草刈や防除に係る機関に要請する

問 病害虫発生によるコメの品質低下を防ぐために、公共白地の除草・防除体制をどのように進めるか。

また、野焼きに替わる方策はないか。

農水商工課長 害虫の代

表的なものとしては、斑点米の原因となるカメムシが挙げられる。

町では県、農協などの関係機関から構成する「入善産米品質向上対策本部」を設け、公共白地を管理する国や県、JRや中日本高速道路(株)のほか、町内主要企業などに直接出向いて草刈りと防除の徹底をお願いしている。

年間スケジュール表の提出も求め、計画的で実効性のある防除活動の指導に努めたい。

町では、JAみな穂と共に、公共白地に地域ぐるみで行う防除活動などを支援しており、今後とも継続する。

野焼きは法令により原則禁止となっている。草刈りや農薬散布を除いては、効果的な方法はない。

問 スマートインターは町の玄関口である。イ

メージアップのためにも、周辺の定期的な草刈りや防除を求めるべきである。

農水商工課長 直接出向いて要望する。

扇状地マラソンへの町民参加は

著名ランナーの招待や部門の増加、開催時期を検討する

問 扇状地マラソンへの町民参加を促すためにも、開催時期など内容を見直してはどうか。

堂徳教育委員会事務局長 今大会の町内参加者は、281名で、参加申込者の約18%。魚津市の33%、黒部市の35%と比較すると低い。

間もなく20回大会を迎えるが、著名人の招待や「町民こそって走る日」の設定などで、参加意識の高揚に努める。

消防の広域化
どの程度の規模や枠組みが最適か
町長 県東部の8市町村の枠組みで
最大限のスケールメリットを生かしたい



広域化のゆくえを見守る消防署

問 消防の広域化についてどの程度の規模や枠組みが最適と考えるか。
黒部市などが不参加を表明したことへの対応は。

町長 現状では、県東部の8市町村を一つとする枠組みが望ましい。
スケールメリットを生かすことにより、デジタル無線や通信指令設備など、多額の費用がかかる部分を軽減できる。

町長 町が飛び地とならないよう、今後、構成市町村と連携をとり、黒部市などに参加を呼びかけていきたい。

問 広域化による具体的メリットは。
西村消防署長 災害時初動体制の強化や予防、救急、救助のより高度化が可能となる。

また、職員間の競争意識が高まり、資質の向上



野島 浩 議員

につながる。

舟見山周辺整備と里山再生を図れ

舟見山周辺や森林の再生整備に努める

問 荒廃しつつある里山の再生など、環境保全対策を長期的展望で取り組むべきだ。

林副町長 山のもつ豊富な資源や多面的な機能を守っていくことが、クマなどの有害鳥獣対策に最も有効であると考えます。

問 今後、県の「緑の森再生事業」などを活用し、森林組合などと連携を図り森林整備に努めたい。
観光要素を含んだ舟

川ダム、負釣山などの周辺整備を図れ。

副町長 舟見山周辺整備については、新総合計画で、早い時期に位置づけし着手したい。
ダムも観光資源になり

得ると考え、公園の設置などを県とも協議しながら整備を行いたい。

問 隣接市町村と広域的なクマ対策協議会の設立を考えてはどうか。
農水商工課長 今年度から「新川サル、イノシシ被害対策協議会」を設立した。

問 今後はクマ対策も含め、情報の共有化、パトロールなどの広域的な連携を検討する。

高速バスの停留所誘致を

関係機関と協議し前向きに検討したい

問 スマートインター駐車場より歩道を取付け、入善パーキングエリア内に、高速バス停を設置してはどうか。

梅津企画財政課長 全国には、パーキングエリアを利用したバス停もある。

設置とバスの延伸が可能であれば、首都圏や中部、関西圏など、町民にとって公共交通利用の選択肢が増えることになり、前向きに検討したい。



水産業の拠点 入善漁港

「第6次入善町総合計画」の農業・水産業の育成策を問う

町長 一次産業の振興を最重要課題とし、様々な施策を推進する



佐藤 一仁 議員

問 新総合計画に盛り込まれる第一次産業の具体的な育成策は。深層水をアワビ養殖以外でも利用する取り組みを

してはどうか。

町長 農業では経営基礎の安定や所得向上のために規模拡大に取組む担い手を支援する。「とも補償」を堅持し、

地域ぐるみの営農体制を強化する。水稲を主力としながらも、付加価値の高い特産品の振興や、6次産業化を進める。

水産業では漁港施設の基盤整備や、担い手の育成支援、育てる漁業などを推進し、経営の安定化に努める。

農水商工課長 深層水の今後の活用については、新たな養殖事業や水産加工など、漁協とともに県や研究機関なども連携

し、検討していく。

観光協会の設立をめざせ

早期の立上げに努める

問 自由な発想力を広く求めるため、観光協会の設立をめざせ。

また、観光資源の活用と広域圏観光への取組みを問う。

農水商工課長 平成17年6月末に、入善町観光協会が解散になった。

今後、観光行政を推進していくには、幅広い参加や意見を求めることが重要で、観光協会の設立は不可欠だ。早期の立上

げに努める。

「富山湾・黒部峡谷・越中」にいかわ観光協議会を設立し、新川地域3市2町で取組んでいる。

今年度は入善フラワールード、深層水ふれあいデーを観光圏事業として取組み、前年の50%増しの来場があった。

きれいで豊富な名水や地域ブランドのジャンボ西瓜、チューリップ、入善米、深層水アワビなどの農水産物や温泉、七夕まつりなど、豊富な観光資源の魅力向上や新たな観光資源の発掘なども考え、経済効果の増加に結びつけるよう努力する。

地域コミュニティの育成策は

「地域コミュニティ・パートナーシップ構築事業」を全地区で

問 地域コミュニティの育

成方法は。

施設整備でサンビレッジランドに夜間照明の設置を。

町長 青年団や婦人会など既存の団体の弱体化などで、地域のコミュニティなどへの参加意識が低下している。

新総合計画では「町民と行政がともに支えるまちづくり」を目標として、梶山、野中でモデルとして実施した地域コミュニティ・パートナーシップ構築事業を全地区に展開していく。

教育委員会事務局長

夜間照明を設置し、地域住民の交流や健康増進を図る場として、あるいは夜間緊急災害時の避難場所としても活用できると考えるが、現段階では新たなコミュニティ施設の建設に併せて協議していきたい。

徹底して町民の声を聞き

利用しやすい町営バスに

企画財政課長 新年度、町民ニーズ調査とバス3台で試験運行を実施



利用しやすい町営バスに

問 利用しやすい町営バスにするためには、徹底して町民の声を聞くことである。

企画財政課長 運行経費は特別交付税の対象になるか。新年度に

本格的なニーズ調査をし、バス3台で試験運行もやりたい。特別交付税の対象となる。

問 並行在来線について、関係4県の協議の場とするために、富山県が

労をとることを提案してはどうか。

町長 富山県並行在来線対策協議会に提案したい。

住宅のリフォームに助成を

全国の状況も調査し検討したい

問 地域経済振興にもつながる住宅のリフォームに、助成してはどうか。

建設下水道課長 全国の状況も調査検討したい。

問 地場産材を使用した住宅建築などに補助する考えはあるか。

黒部川流域の宇奈月町産の木材も広い意味で地

場産と考えられないか。

建設下水道課長 黒部市の

地域材活用事業の状況を調査し、循環型社会形成を目指す意味で検討したい。

問 クマなどの被害から住民生活を守るためにも、

森林整備をどうすすめるのか。

町長 引き続き県に働き

かけ、混交林整備や里山再生などに取組みたい。
問 沢スギを公共施設の

一部などに使用し、そのことを表示してはどうか。

教育委員会事務局長

再利用などを検討したい。

生活困窮者の医療費減免をどう検討したか

新年度から実施したい

問 国保法第44条に基づく医療費の自己負担減免実施の準備は大丈夫か。

健康福祉課長 厚労省の

通知を受け、新年度実施に向け要綱を整備する。

要介護者の障害者控除制度の周知徹底を

ケアマネジャーの協力を得たい

問 要介護者も町長が認定すれば、障害者控除を受けられる。周知徹底を図るため、ケアマネジャー

の協力を得る考えはあるか。

藤田税務課長 協力を得

て、周知徹底を図りたい。

地域の祭りや旬の食材を観光資源に

十分、観光資源となり得る

問 祭りは、観光資源とにならないか。地場産の旬の食材を、観光に生かすことはどうか。

農水商工課長 祭りは、

貴重な文化であり、十分、観光資源となり得る。に

いかわ観光圏の中で、郷土の祭りに特化した旅行商品券などの開発も考えられる。コミュニティの振興にも繋がる。

豊富な食材も、観光資源になり得る。特産品の開発、ブランド化に支援していきたい。



九里 郁子 議員

生涯現役

屋木 みよ乃さん 85歳
(飯野)



作法は心を磨く

裏千家の終身師範の資格を持つ屋木さんの茶名は「宗古」。ご主人の健一さん（故人）が茶道に興味があり、知人の勧めもあつてこの道に入門した。以来本人もこの世界にのめり込み、もはや60年になろうとしている。

家族の理解もあり、嫁の英子さんも師範の資格を持つ。「みんなに支えてもらえることが、これまで続けて来られた要因である」と語られた。また富山市で開催される定期的な研修会にも毎回参加され「動作よりも心を磨くため」の自己研鑽に余念がない。

子供のパワーが元気の秘訣

現在、入善西中学校のハンズクラブ部の生徒に茶道を指導するほか、飯野学童保育や老人福祉センターなどにも出向いて教えておられる。もちろん自宅でも週に数回の茶会を開かれ、多忙な毎日である。

特に入善西中学校へは、これこれ30年も足を運び、時には厳しく、時には楽しく、特にマナーを中心に指導していると聞いた。また「茶道を通して若い人たちと触れ合う中で、元気をもらい、続ける意欲につながっている」と話された。

年末には、生徒たちと近くの公民館で「点心の会」を開催し、楽しい時間を過ごしたと、うれしそうに話された。みよ乃さんの優しさが垣間見られた瞬間である。

奥深さが魅力

茶道は、挨拶に始まり挨拶で終わると言われるくらい礼節が重んじられるほか、多くの知識を学び人生の糧となる

ような文化が凝縮された奥の深い作法である。

茶会では茶室の床の間に季節の花を飾ることから、草花にも目がいくようになり、茶碗や棗、水差し、掛け軸などの趣向も考えなければならぬので、自然に道具の勉強もせざるを得ない。また書道の知識も必要になる。

清閑な茶室で自ら茶を点てる。仲間にて点てもらい、お茶をゆつくり楽しむ時間は雑念が払われ、最も落ち着く時

間である。

今後の夢

この日本の伝統文化である茶道を、もっとたくさんの人たちに伝えることが屋木さんの夢。

お茶を毎日欠かさず飲む習慣からか風邪もひかず、いたって健康。「これからも元気でお茶を楽しみたい」と目を輝かせて話される屋木さんのパワーに圧倒された。



子どもたちと楽しい茶会

編集の窓



新年おめでとございます。昨年をふり返ってみると、自然界では、猛暑とゲリラ豪雨。経済では、円高などによる景気の低迷、そして雇用不安が続きました。

政治では、新政権への国民の期待は、結果的には失望に変わった年でありました。今年、町にとつて新総合計画が実施される年であります。

「扇状地に水と幸せがあふれるまち入善」を将来像に描き、基本計画、実施計画が示され、任んで良かったと思えるまちづくり、議員一同も取り組んでまいります。

今年もよろしくお願い致します。

議会広報編集特別委員会

- | | |
|------|-------|
| 議長 | 松澤 孝浩 |
| 委員長 | 長田 武志 |
| 副委員長 | 松田 俊弘 |
| 委員 | 大橋美椰子 |
| " | 鬼原 征彦 |
| " | 笹島 春人 |
| " | 野島 浩 |